

この紙のゴール：初めて読む英文から、大意と必要な情報を制限時間内につかむ / 本文はこの教材のための書き下ろし（初見用）です。

At many stations, people stand on one side of the escalator and leave the other side open for people who want to walk. It looks fair, and it feels fast. But on a long escalator, it may not be the fastest way.

Walking up a long escalator is hard work, so most people do not do it. In one study at a busy station in London, only about one person in four chose to walk. The walking side stayed almost empty, while a long line grew at the bottom of the standing side.

Walkers also need space. You cannot climb right behind another person on moving steps, so each walker uses several steps. People who just stand can use every other step.

In that study, the station asked everyone to stand on both sides. About thirty percent more people reached the top in the same time.

So when the line is long, stand on both sides. And if you are really in a hurry, use the stairs next to the escalator.

〔語注〕 escalator=エスカレーター every other step=1段おき in a hurry=急いで

設問 本文の内容に合うものを選ぼう。

(1) この文章がいちばん伝えたいことは？ **思考・判断・表現** 答え（ ） 3点

- ア エスカレーターを歩くのは危険なので、駅は歩行を禁止するべきだ
- イ 片側を空ける習慣は、ロンドンのいくつかの駅だけのものである
- ウ 長いエスカレーターでは、両側に立つほうが多くの人を運べる
- エ 急ぐ人のために、歩く側の幅をもっと広くとるべきである

(2) ロンドンの駅の調査で、歩くことを選んだ人の割合は？ **知識・技能** 答え（ ） 3点

- ア およそ4人に1人
- イ およそ10人に3人
- ウ およそ2人に1人
- エ およそ4人に3人

(3) 歩く人と立つ人の、段の使い方について本文が述べていることは？ **知識・技能** 答え（ ） 3点

- ア 歩く人も立つ人も、1人が1段ずつを使うことになっている
- イ 立つ人のほうが、1人あたりに多くの段を必要としている
- ウ 歩く人は段を使わず、手すりにつかまって上っていく
- エ 歩く人は1人で数段を使い、立つ人は1段おきに乘れる

(4) 筆者が最後にすすめているのは？ **思考・判断・表現** 答え（ ） 3点

- ア 行列が長いときは両側に立ち、急ぐ人は階段を使う
- イ 混雑しているときは、歩く側の幅をもっと広げてもらう
- ウ エスカレーターは使わず、いつも階段を使うようにする
- エ 駅にエスカレーターをもっと増やすよう求めていく

解答

(1)	ウ	第1段落 it may not be the fastest way と第4段落 About thirty percent more people。危険や禁止の話は本文に出てこない。
(2)	ア	第2段落 only about one person in four chose to walk。10人に3人（約3割）は第4段落の、運べた人数がふえた割合。
(3)	エ	第3段落 each walker uses several steps / People who just stand can use every other step。
(4)	ア	最終段落 stand on both sides / use the stairs next to the escalator。ウは「いつも」が言い過ぎ。

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

毎日やっている行動が、実は全体を遅くしているかもしれない—という型の英文です。空いて見える側のほうが仕事をしていないという結論なので、(1)と(4)は「歩くほうが速いに決まっている」という日常の感覚を捨てて本文に戻らないと取れません。数字が2つ（歩く人の割合と、運べた人数の増加率）出てくるので、(2)は数字とラベルの取りちがえを直接ねらえます。

設問	型	観点	テストでの使い方
(1)	大意（スキミング）	思考・判断・表現	概要把握。「危険だから禁止」のような、本文にない主張を切れるか
(2)	明示情報	知識・技能	2つの数字（4人に1人／約3割）のどちらが何の数字かを見分ける
(3)	明示情報	知識・技能	歩く人と立つ人の、段の使い方のちがいの読み取り
(4)	筆者の提案	思考・判断・表現	結論段落から「読者にできること」を選ぶ。急ぐ人への代案まで読めているか

3つの版の使い分け

同じトピック・同じ設問構造で、英文の語彙・構文と選択肢の言語だけを変えてあります（基礎=選択肢も日本語／標準=選択肢が英語／発展=設問も英語）。①クラスの帯に合わせて選ぶ ②同じクラス内で配り分ける ③基礎→標準→発展と日を空けて再挑戦—の3通りの使い方ができます。正解の記号は版ごとに違います（配り分けのときの写し合い対策にもなります）。